

5年で2倍以上に！リチウムイオンバッテリー搭載製品の事故 ～モバイルバッテリーは購入時にPSEマークを確認しましょう～

モバイルバッテリーを筆頭に、リチウムイオンバッテリーを搭載した様々な製品で事故が発生しています。2013年度から2017年度の5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、リチウムイオンバッテリーを搭載した製品（以下「LiB製品^{※2}」という。）の事故は582件^{※3}ありました。

事故の被害状況を見ると、582件のうち、402件（69%）が火災を伴っています。LiB製品の事故の原因は、製品の不具合によるものが368件（71%）と最も多くなっています。368件のうち209件（36%）は、リコール対象製品によるものであり、回収や交換、情報の周知などが適切に行われていれば防げた事故も多いと考えられます。

モバイルバッテリーの事故の多発を踏まえ、経済産業省は2018年2月1日、通達「電気用品の範囲等の解釈について」を改正し、モバイルバッテリーを電気用品安全法の規制対象として取り扱うこととしました。事業者における対応の準備期間として、施行日より1年間を経過措置期間とし、この間はこれまでの扱いによることもできるとしていましたが、来る2019年1月末日で経過措置期間が終了いたします。2月1日以降は、基準に適合した製品でなければ販売できません。

モバイルバッテリーの規制に関する経過措置期間の終了を目前に控えたこの時期に、またLiB製品による事故は年々増加しているため、注意喚起を行います。

リコール製品による事故が多く発生しているため、まずはリコールの情報を確認してください。また、誤った使い方による事故も発生しているため、取扱いには十分注意して事故を未然に防ぎましょう。



モバイルバッテリーの事故品

■事故事例と事故防止のポイント

- モバイルバッテリーに搭載されていたバッテリーパックのセルに、金属片の混入や電極板の不良などが生じた不具合品が混入していたため、内部ショートが生じて異常発熱し、焼損する事故が発生した。当該製品は事故発生前にリコールが実施されていた。【2017年4月、大分県、性別不明】
⇒お手持ちの製品がリコール対象かどうか確認し、リコール対象の場合は不具合が生じていなくても速やかに使用を中止し、購入した販売店や製造・輸入業者に相談する。
- ネットで購入したLEDヘッドライトを充電中、バッテリーパックのセルが内部ショートが生じ、製品と周辺を焼損する事故が発生した。製品は販売事業者の連絡先が不明であり、どこで製造されているかもわからないようなものであった。【2017年12月、大阪府、男性】
⇒製造事業者や輸入事業者が確かな製品を購入する。
- 鞆に入れたスマートフォンに、外から力が加わったため、内部ショートが生じて異常発熱し、焼損する事故が発生した。なお、取扱説明書には、「分解しない。無理な力や強い衝撃を与えない。発熱・発火の原因となる。」旨、記載されていた。【2015年10月、京都府、女性】
⇒LiB製品は丁寧に扱う。

（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※2) 本資料では持ち運び可能な外付けのリチウムイオンバッテリー（いわゆる携帯充電器、パワーバンク）のことを「モバイルバッテリー」、スマートフォンやノートパソコン用の組電池のことを「バッテリーパック」、バッテリーパックを構成する単電池を「セル」と呼びます。

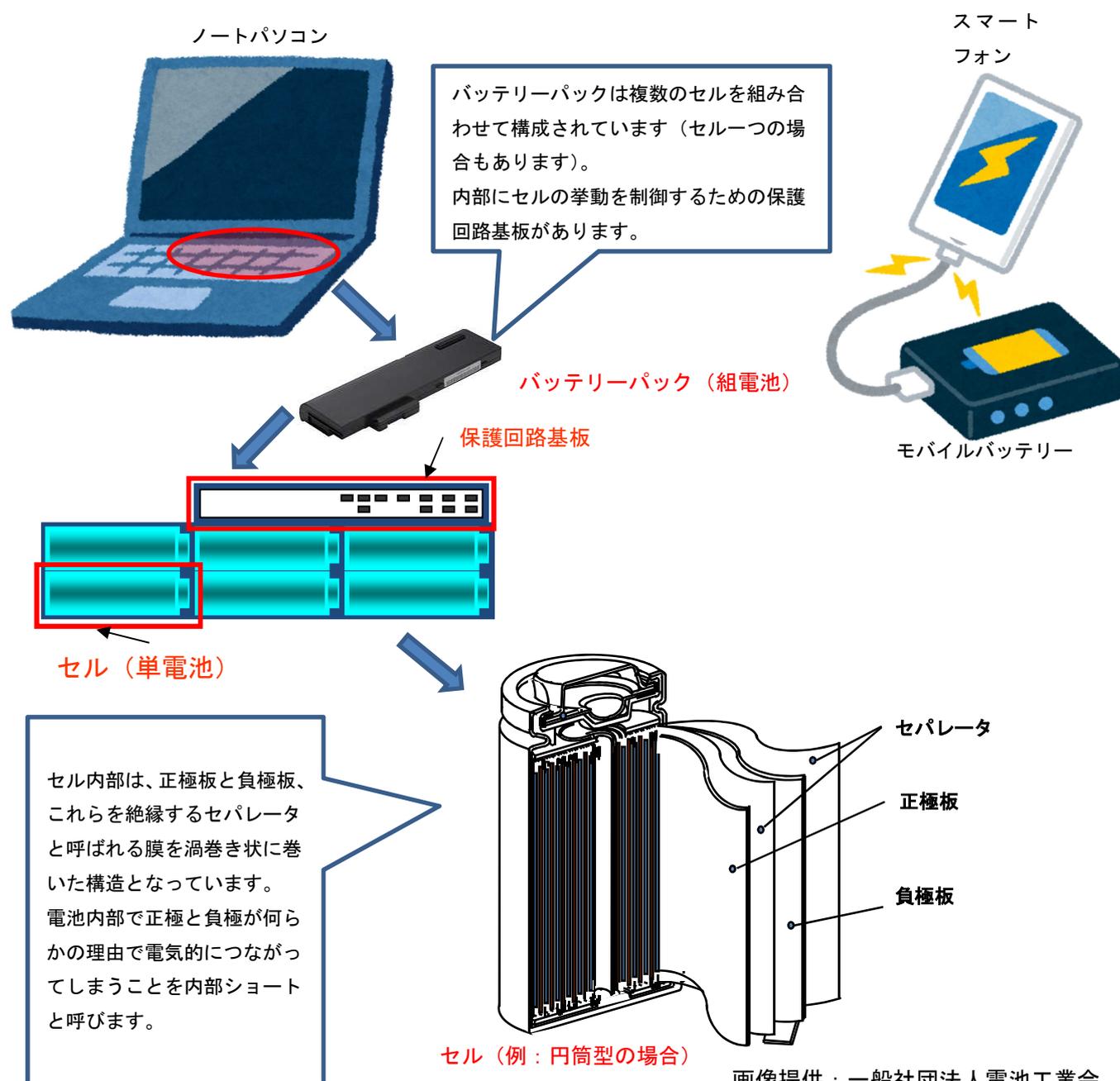
(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

リチウムイオンバッテリーの定義と対象

○リチウムイオンバッテリーとは

リチウムイオンバッテリーとは、リチウムイオンの正負極間移動によって充放電できる二次電池です。リチウムイオンバッテリーは、小型で大容量、数百回の繰り返し使用が可能、保管時の容量低下が少ないなど他の種類の二次電池と比べて多くの点で優れていることから、様々な電気製品に搭載されています。

■リチウムイオンバッテリー搭載製品の構造例



1. 事故の発生状況

2013年度から2017年度の5年間にNITEが収集した製品事故情報のうち、LiB製品の事故は582件ありました。それら製品事故について、事故の発生状況を次に示します。

(1) 年度別 事故発生件数

図1にLiB製品における「年度別 事故発生件数」を示します。

2013年度から2017年度にかけて、LiB製品の事故は増加を続けています。2016年度からは毎年100件を超えています。

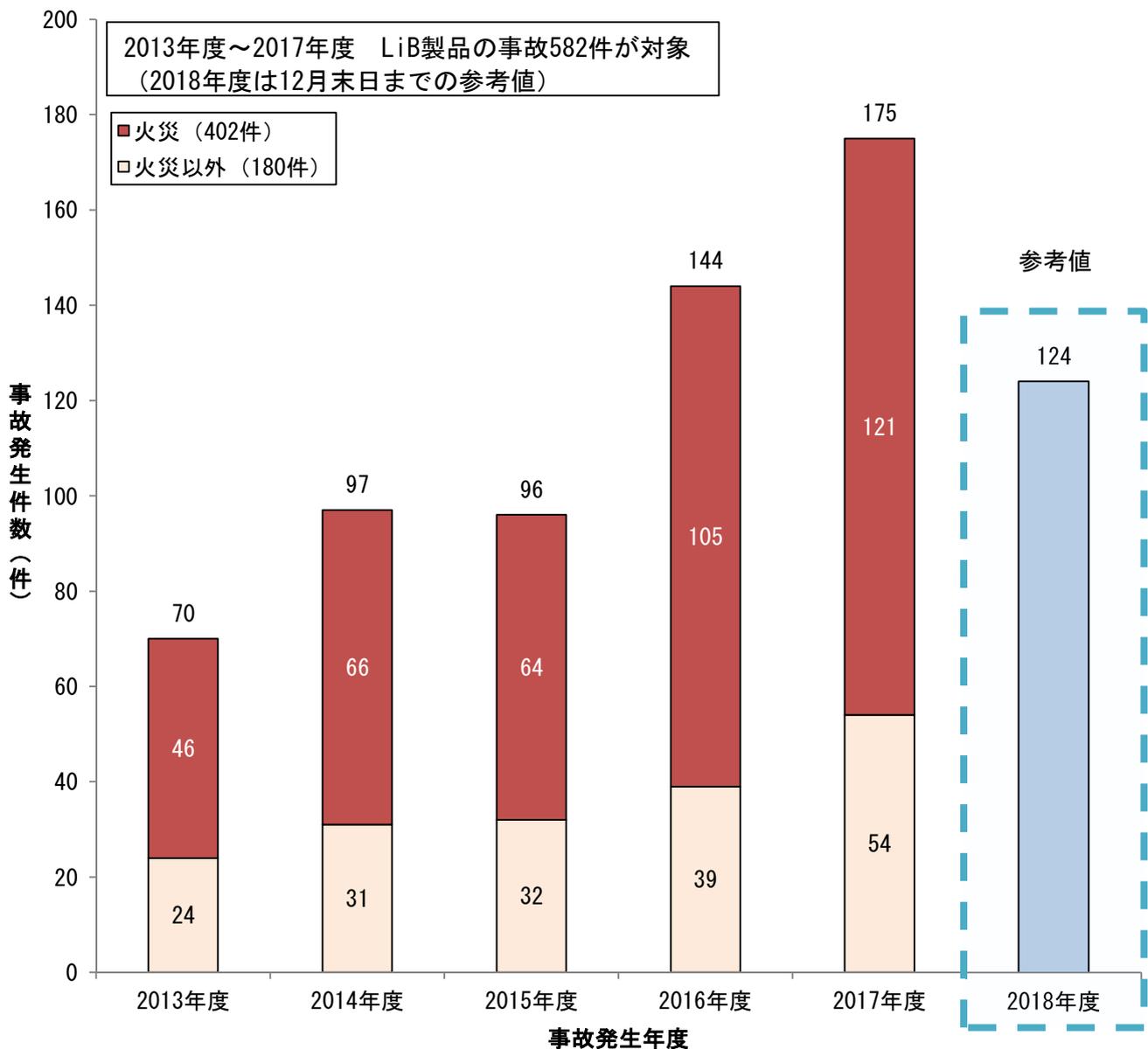


図1：年度別 事故発生件数

(2) 製品別 事故発生件数

図2にLiB製品の事故のうち、事故発生件数の多い10製品について、「製品別 事故発生件数」を示します。モバイルバッテリーの事故が最も多く発生し、次にノートパソコン、スマートフォンの事故が多く発生しています。

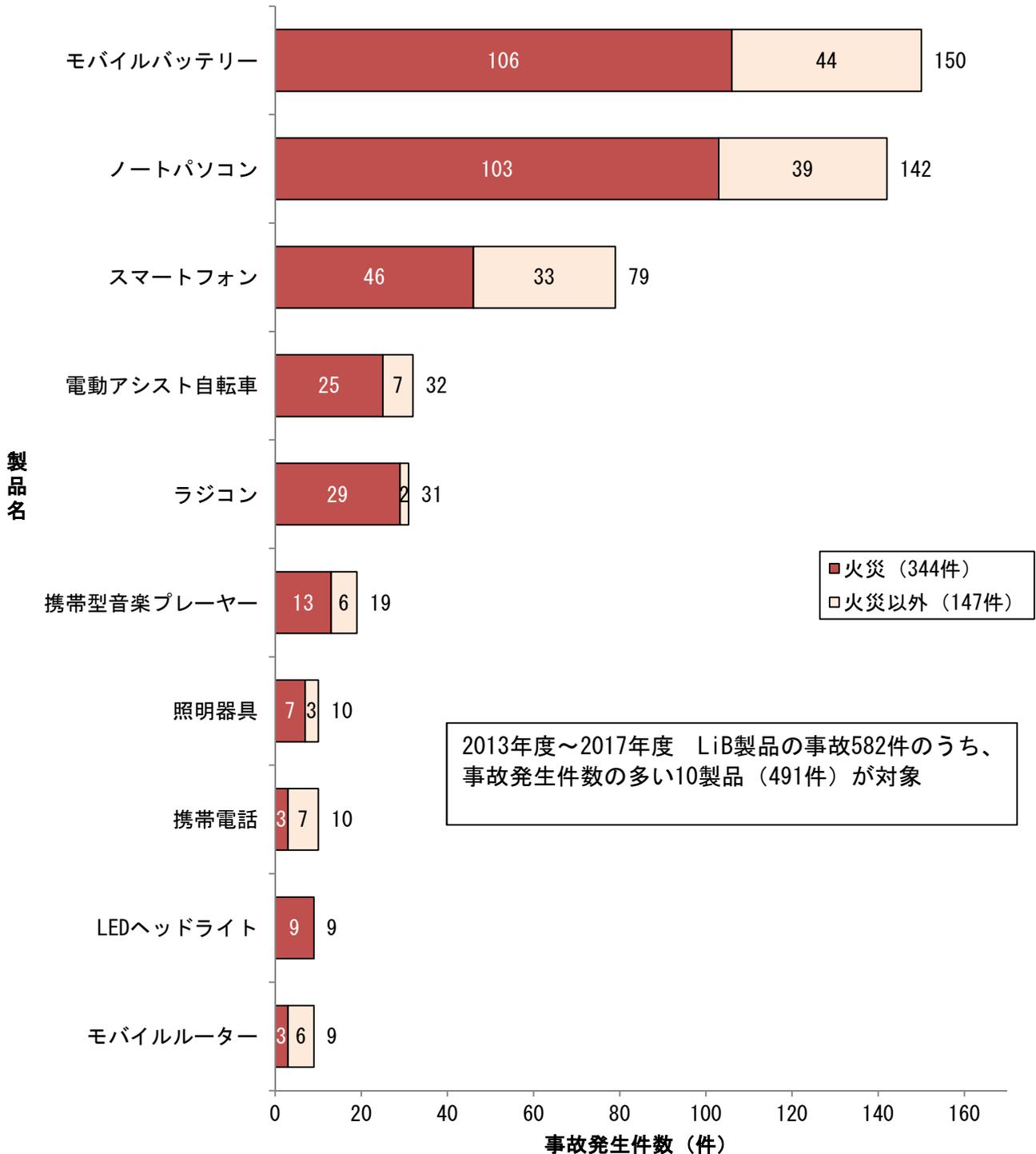


図2：製品別 事故発生件数

(3) 事故原因区分別 事故発生件数

LiB製品の事故582件のうち、調査が終了した513件について、図3に「事故原因区分別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分（別紙1参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、G3） 368 件（71%）
 - 製品に起因しない事故（事故原因区分 E、F） 33 件（7%）
 - 原因不明のもの（事故原因区分 G3 を除く G） 112 件（22%）
- となっています。

製品に起因する事故が368件（71%）と最も多く、主な原因は製造過程でセルの内部に導電性の異物が混入したことによって、充放電を繰り返すうちに内部ショートが生じ異常発熱して焼損に至った事故などです。

一方、「バッテリーパックに衝撃を加えたため破裂」や「分解しようとしてバッテリーパックを傷付けて発火」などの事故も発生しており、使用者が取扱いを誤ることで事故につながった事例もあります。

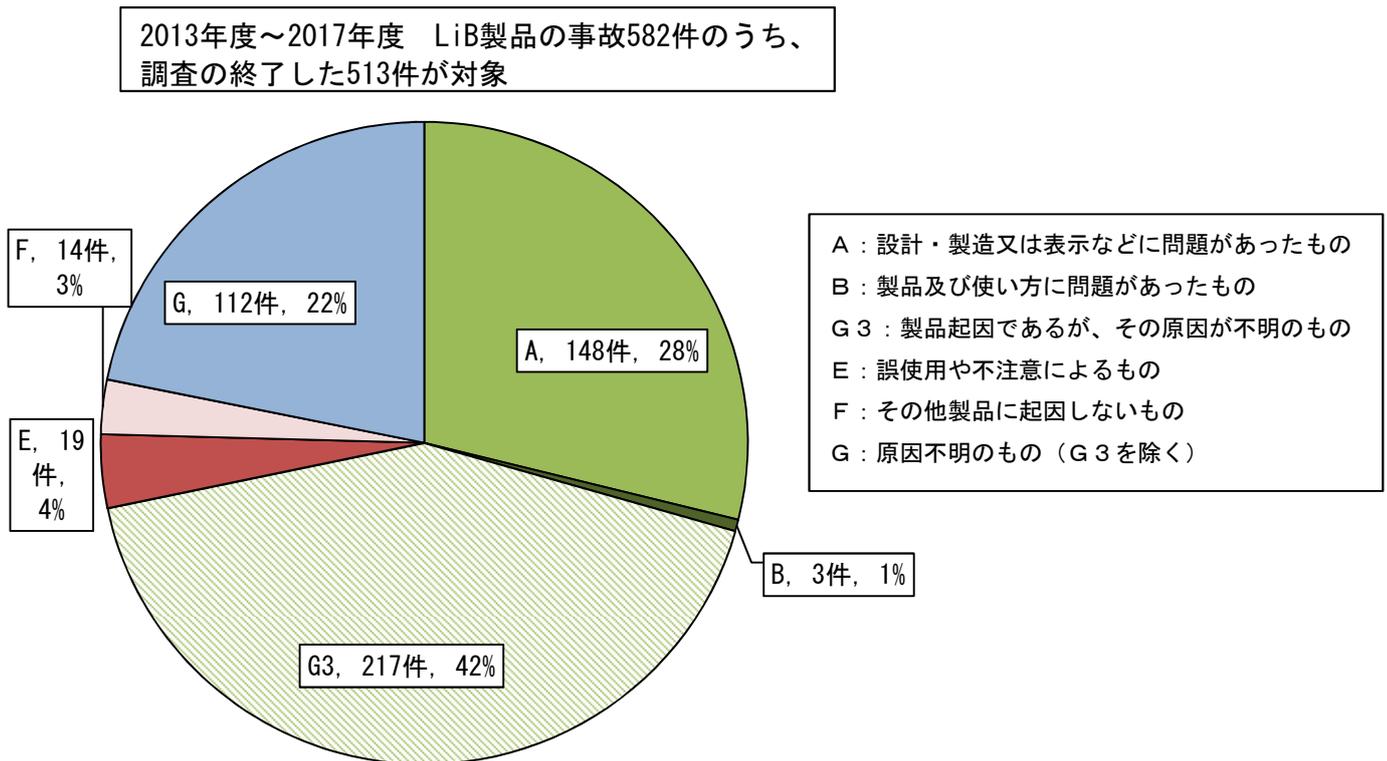


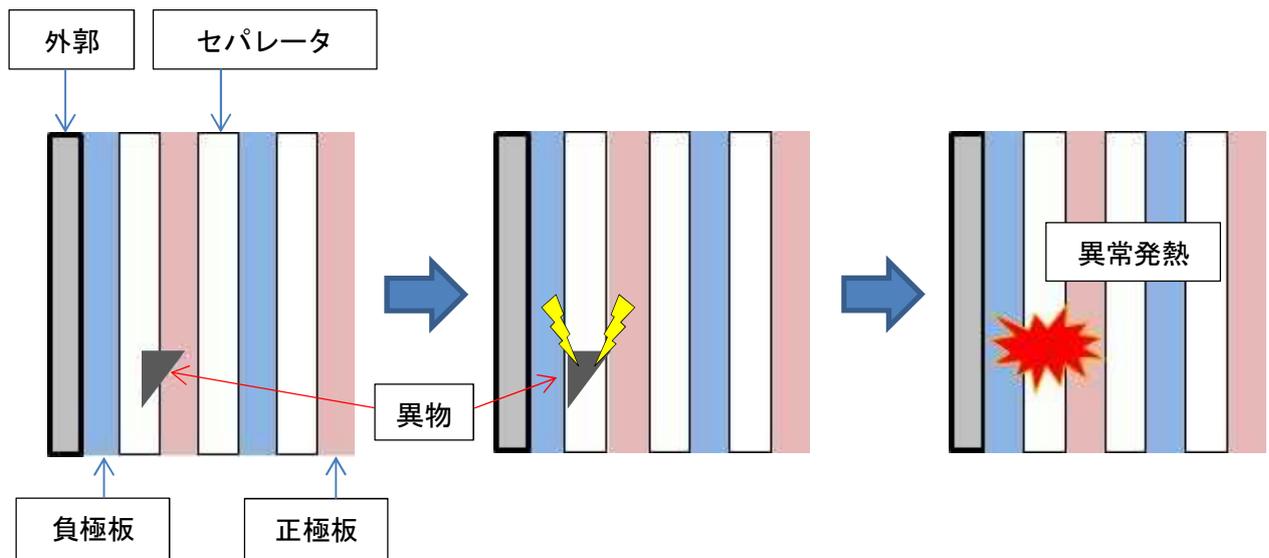
図3：事故原因区分別 事故発生件数

LiB 製品の事故事象

【製造不良による事故事象の例】

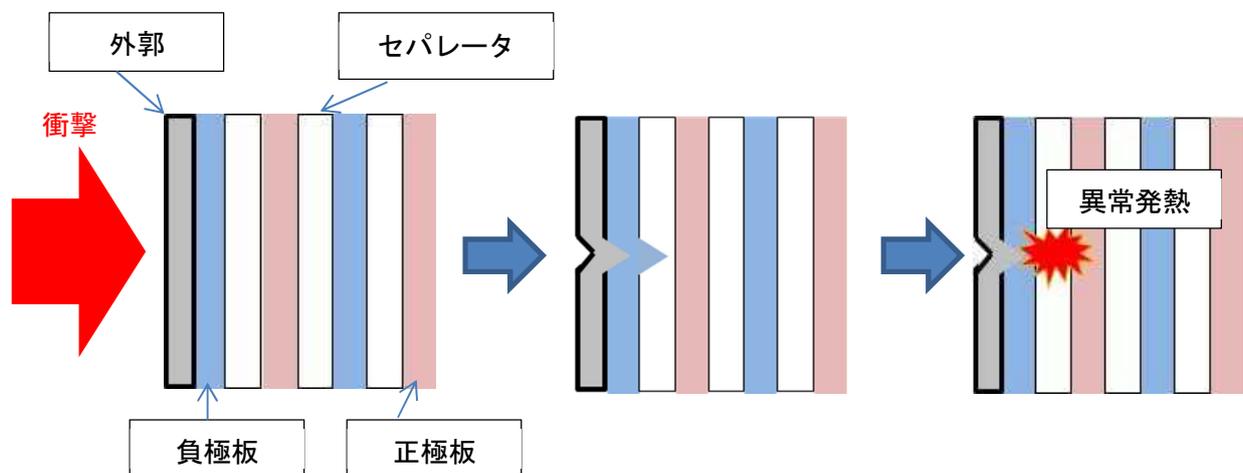
異物の混入等によりセパレータが損傷し、正極板と負極板の間で内部ショートによって異常発熱が生じます。

- 異物が混入していた場合



【外部からの力による事故事象の例】

衝撃によって、セル内部のセパレータが損傷を受けて、正極板と負極板の間で内部ショートによって異常発熱が生じます。



(4) 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数

表1に「事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

表1：事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数※4

状況 原因区分		被害		人的被害			物的被害		総計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損			
製品に起因する事故	A:設計・製造又は表示等に問題があったもの		1 (1) [0]	5 (9) [5]	126 [83]	16 [6]	148 (10) [94]		
	B:製品及び使い方に問題があったもの				3 [3]		3 (0) [3]		
	G3:製品起因であるが、その原因が不明のもの			8 (8) [5]	157 [119]	52 [21]	217 (8) [145]		
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	1 (1) [0]	13 (17) [10]	286 (0) [205]	68 (0) [27]	368 (18) [242]	
製品に起因しない事故	E:誤使用や不注意によるもの			1 (1) [1]	18 [15]		19 (1) [16]		
	F:その他製品に起因しないもの		1 (1) [1]		9 [8]	4 [3]	14 (1) [12]		
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	1 (1) [1]	1 (1) [1]	27 (0) [23]	4 (0) [3]	33 (2) [28]	
G:原因不明のもの(G3を除く)		1 (1) [1]		13 (20) [9]	79 [60]	19 [5]	112 (21) [75]		
H:調査中				8 (9) [5]	47 [44]	14 [8]	69 (9) [57]		
総計		事故件数 被害者数 火災件数	1 (1) [1]	2 (2) [1]	35 (47) [25]	439 (0) [332]	105 (0) [43]	582 (50) [402]	

(※4) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(5) リコール対象製品の事故発生件数

図4にLiB製品における「リコール対象製品^{※5}による事故発生件数」を示します。

LiB製品の事故582件のうち、事業者が製品の交換や回収、注意喚起などのリコールを行っているものは209件(36%)あります。

リコール対象製品のうち、リコール開始後に事故が発生したものは110件(53%)であり、リコール対象製品の事故の半数以上がリコール開始後に発生しています。リコール情報を把握していれば事故を防げた可能性もあるため、リコール情報は積極的に確認しましょう。

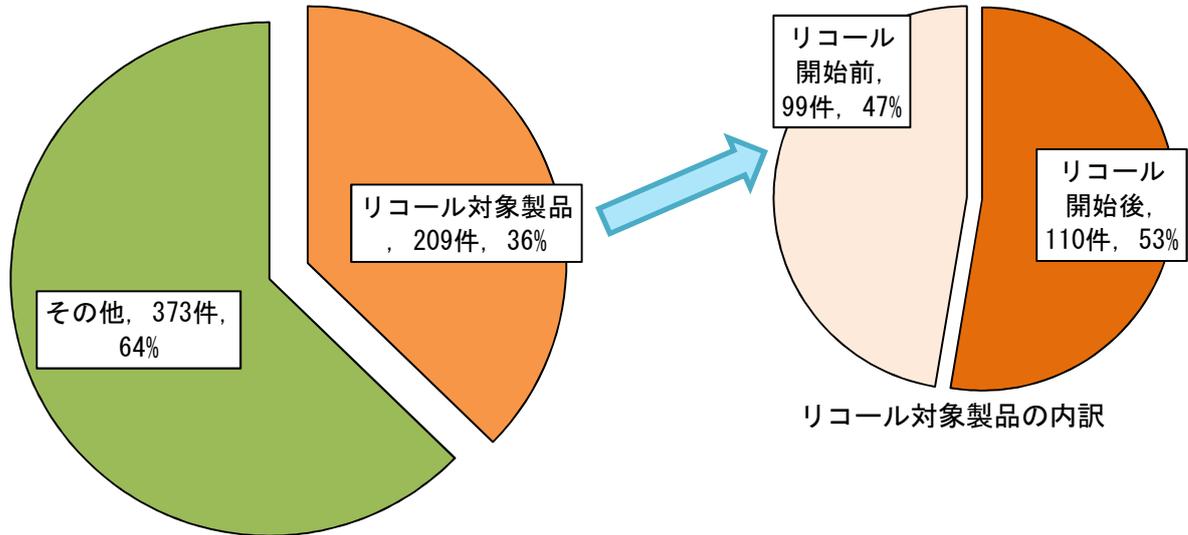


図4：リコール対象製品による事故発生件数

※5：「その他」には、リコール対象外、不明のもの、調査中のものを含んでいます。

(6) 事故発生時の使用状況

図5にLiB製品の事故における「事故発生時の使用状況^{※6}」を示します。

LiB製品の事故582件のうち、発煙・発火などを生じた製品が充電中であった事故は285件(49%)あります。充電中に事故が発生する可能性が最も高いため、就寝時に充電する際には、枕元に置かないなどの注意が必要です。

※6：モバイルバッテリー本体へ充電している際は「充電中」とし、モバイルバッテリーから電子機器へ給電する際は「使用中」とする。

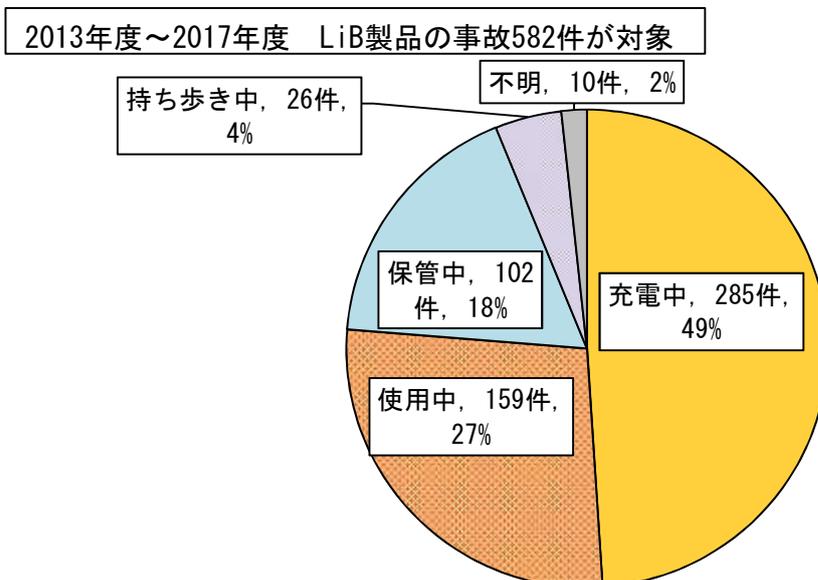


図5：事故発生時の使用状況

(7) 事故発生時の使用状況

図6にLiB製品の事故における「事故発生場所」を示します。

LiB製品の事故582件のうち、最も多い事故発生場所は自宅です。これは自宅で充電を行う機会が多く、図5のとおり充電中に事故が発生しやすいためと考えられます。

件数は多くありませんが、公共の場や公共交通機関での事故が発生しています。多数の人が集う場所や交通機関の中で発生した事故は、事故事象そのものが小規模であったとしても、周囲に及ぼす影響が大きいため注意が必要です。表2に公共の場及び公共交通機関での事故について発生場所の詳細を示します。

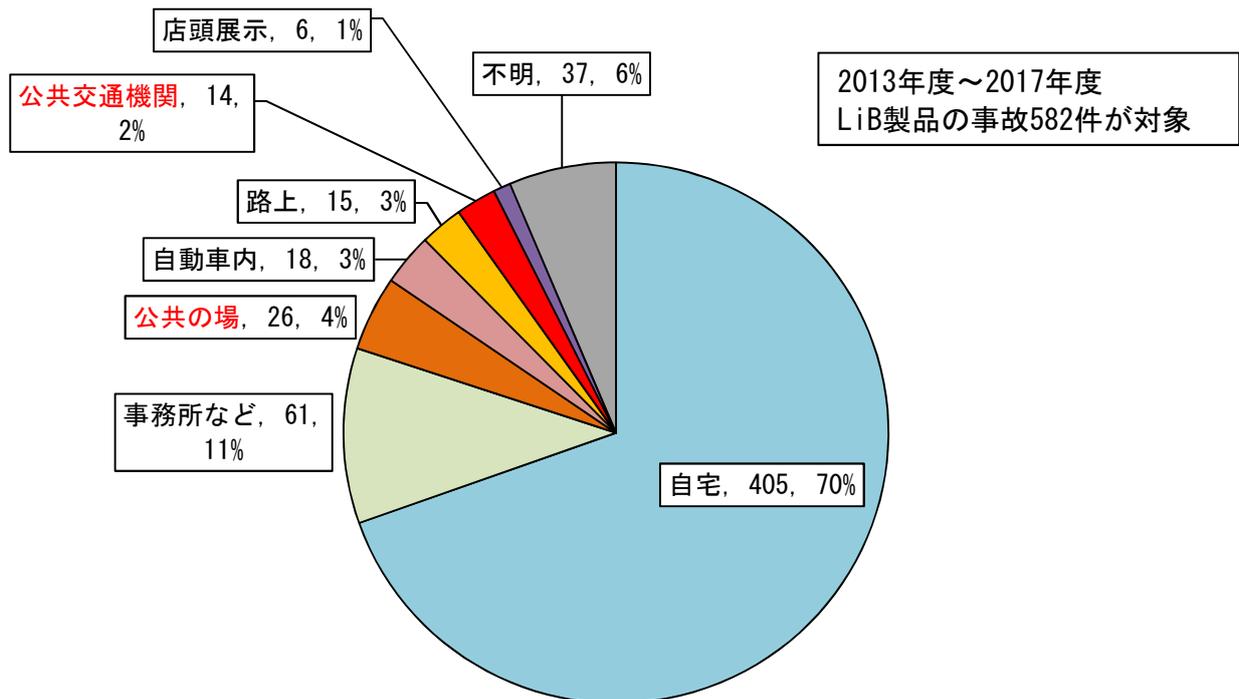


図6：事故発生場所

表2：事故発生場所の詳細

公共交通機関	
電車内	9
駅構内	3
バス	1
飛行機	1
総計	14

公共の場	
学校	6
店舗	4
ホテル	3
病院	3
遊園地・公園・キャンプ場	3
イベントスペース	2
施設	2
児童会館	1
駐車場	1
老人ホーム	1
総計	26

2. LiB 製品の事故事例

(ア) モバイルバッテリーの事故

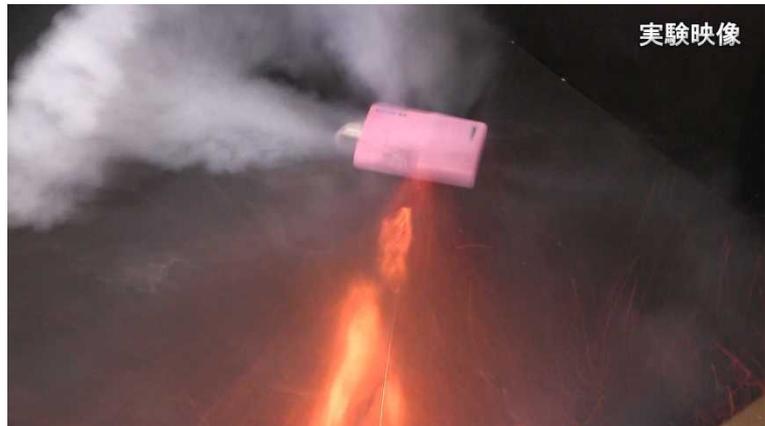
2017年4月（大分県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

異音が生じたため確認すると、モバイルバッテリーが発火し、周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

モバイルバッテリーに搭載されていたセルに金属片の混入や電極板の不良などの不具合品が混入していたため、内部ショートが生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。なお、2016年11月よりリコールが行われていたが、使用者がリコール情報を把握していたかは不明である。



(イ) ノートパソコンの事故

2018年1月（山口県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

使用中のノートパソコンのバッテリーパックから火が出て、テーブルが焦げた。

【事故の原因】

バッテリーパックに搭載されていたセルの製造上の不具合により、電池の内部に異物が付着したため、充放電を繰り返すうちに内部ショートが生じて異常発熱し、出火に至ったものと考えられる。なお、2014年5月よりリコールが行われており、使用者はリコール情報を把握していたが、継続して使用していた。

(ウ) スマートフォンの事故

2017年8月（山梨県、50歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

スマートフォンをハンガーに掛けた上着のポケットに入れていたところ、発火して周辺を焼損した。

【事故の原因】

内蔵バッテリーの固定が不十分だったため、使用時の振動などによってバッテリーパックの固定が外れて移動し、バッテリーの変形により内部ショートが生じて焼損したものと考えられる。なお、2016年3月よりリコールが行われており、使用者宛てにダイレクトメールが送られていた。

(エ) 携帯型音楽プレーヤーの事故

2014年4月（埼玉県、30歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

携帯型音楽プレーヤーをスピーカーに接続して使用していたところ、音楽プレーヤーの接続端子付近が溶融し、発煙した。

【事故の原因】

バッテリーセル内部に製造不良があったことにより、使用を繰り返すうちにバッテリー内の絶縁部が劣化し、バッテリーに内部ショートが生じ過熱したものと考えられる。なお、2011年11月よりリコールが行われていたが、使用者はリコールを把握していなかった。

LiB製品の気を付けるポイント①

○リコール対象製品か確認する

製造事業者・販売事業者などが公表するリコール情報には、「対象製品の名称・型番」「販売時期」「対処方法（回収、修理、交換など）」「問合せ先」などが記載されています。

製品には、それぞれ型番が記載されています（右図参照）。同じ製品であっても、販売時期（製造時期）や製造ロットによってリコール対象とならない場合がありますので、必ずご確認ください。

型式の確認など難しい場合もありますので、まずはお持ちの製品の「事業者名」＋「リコール」などでWeb検索をかけてご確認ください。



○リコール情報について

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989年度）以降に製造事業者、販売事業者などの事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。



<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」などの単語で検索してください。

○リコール対象製品の場合は、不具合が生じていなくても使用を中止する

リコール対象製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、販売店や製造・輸入事業者に連絡してください。使い続けて、事故に至ったケースも報告されています。

(オ) 事業者や販売元が不確かな製品による事故①

2017年12月（大阪府、40歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

ネット通販で購入したLEDヘッドライトを充電中、バッテリー付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

バッテリーが内部ショートが生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。焼損したバッテリーはLEDヘッドライトに付属していたものではなく、個別に別途購入したもので、単セルで販売されているものであった。販売事業者の連絡先が不明であり、どこで製造されているかもわからないような製品であった。

(カ) 事業者や販売元が不確かな製品による事故②

2017年12月（大阪府、45歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

ネット通販で購入したモバイルバッテリー付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

バッテリーが内部ショートが生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。事故は使用開始から3週間ほどで発生した。輸入事業者が不明であり、いつ製造されたかもわからないような製品であった。

(キ) 非純正品による事故

2015年6月（大阪府、20歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

ネット通販で購入したノートパソコンのバッテリーから出火し、机の一部が焦げた。

【事故の原因】

非純正品のバッテリーパック内部の制御基板が一部焼損しており、トラッキング現象が生じて出火したものと推定されるが、トラッキング現象が生じた原因の特定はできなかった。

(ク) 充電モードの設定ミスによる事故

2017年6月（静岡県、40歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

ラジコンバッテリー用充電器でリチウムポリマーバッテリーを充電中、充電器、バッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

充電する際、充電モードの設定を間違えたため、過充電となってリチウムポリマーバッテリーから出火し、当該製品に延焼したものと推定される。

充電器の取扱説明書には、「各種設定項目は、バッテリーに添付の説明書をよく読んで正しく設定する。」「充電を開始する前に、設定が電池に適合しているか確認する。」旨、記載されていた。

なお、出火したバッテリーのメーカーや購入時期は不明であった。

LiB 製品の気を付けるポイント②**○製造事業者、輸入事業者や販売元が確かな製品を購入する**

インターネットで購入したなどの LiB 製品での事故が発生しています。事故発生後に事業者にお問い合わせようとしても連絡先が不明であったり、日本国外の連絡先しか表示されていなかったりするものがあります。

製品を購入する際には事業者の連絡先が確かなものを購入するようにしてください。

○非純正品のバッテリーの取扱いに注意する

ノートパソコン等の LiB 製品は、製品本体とバッテリーの両方の制御機能で安全かつ最適な機能を実現できるよう設計されています。組み合わせによっては制御機能が正常に働かず事故に至るおそれもあり、非純正品の使用はメーカーの保証範囲でないため、純正品の使用が推奨されます。

○製品の購入や使用に当たっては十分に知識を持って行う

一部の LiB 製品の中には、製品の特性や取扱い上の注意を厳重に確認する必要があるものがあります。

(ケ) 衝撃による事故

2015年10月（京都府、年齢不明・女性、拡大被害）

【事故の内容】

スマートフォンをかばんに入れていたところ、バッテリーパックが発熱及び発煙し、かばんの中を焼損した。

【事故の原因】

スマートフォンのバッテリーパックにへこみがあり、周囲の樹脂部品に傷があることから、外から力が加わったため、内部ショートが生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「分解しない。無理な力や強い衝撃を与えない。発熱・発火の原因となる。」旨、記載されていた。

(コ) ペットのかみつきによる事故

2013年12月（香川県、50歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

充電後のルーター用バッテリーとその周辺が焼損した。

【事故の原因】

充電後、バッテリーを取り出して放置していたことから、飼い犬がかみつき、電極間でショートが生じて焼損したものと考えられる。なお、ルーターの取扱説明書には、「ペットが電池パックにかみつかないよう注意する。」旨、記載されていた。

(サ) 電子たばこの事故

2017年4月（埼玉県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

ネット通販で購入した電子たばこを充電中、内蔵したバッテリーから発煙して破裂し、飛散した破片でじゅうたんが焦げた。

【事故の原因】

内蔵バッテリーが内部ショートが生じて異常発熱し、破裂したものと考えられる。

LiB製品の気を付けるポイント③**○衝撃を与えない**

リチウムイオンバッテリーは外部からの衝撃が加わり、へこむなどすると内部ショートが生じ、発煙や発火につながります。LiB製品は小型のものも多く、ポケットに入れたまま座って体の下敷きにしたり、手をすべらせて落下させたりなどして、外部からの衝撃が加わると異常発熱などにつながるおそれがあります。

また、かばんの中に入れて持ち運んでいる際に事故が発生した事例もあります。LiB製品をかばんなどに入れて持ち運ぶ際は、衝撃が加わらないように注意してください。

○分解や改造などをしない

LiB 製品は、容易にバッテリーパックが取り外せない構造になっているものが多くあります。スマートフォンなどの外装を無理にこじ開けると、バッテリーパックにキズがつき、内部ショートし、発火に至るおそれがあります。また、バッテリーパックの配線を改造するような行為も絶対にしないでください。保護回路が正常に働かなくなるなどし、火災につながります。

○就寝中は可燃物の側に置かない

就寝時は事故に気付きにくく、寝具が被さるなどすると熱がこもりやすくなります。また、体の近くにあるため、やけどにつながりやすく、周囲にふとんなどの可燃物が多くあることから大変危険です。体の近くでは充電せず、燃えやすいものが周囲にない場所で充電してください。

○以下のような状況に該当する場合は、使用を中止して、購入店又は製造・輸入事業者の修理窓口にご相談する

- 充電できない。
- 充電中に以前よりも熱くなる。
- 外装が膨張し、変形している。バッテリーパックが膨張している。
- 落とす、ぶつけるなどで強い衝撃を与え、一部が変形している。
- 不意に電源が切れる。

○上記の予兆がみられなくても、以下の状況に該当する場合は、使用時に異常が生じるおそれがあるため、取扱説明書を熟読して使用する

- 車のダッシュボードの上など、高温となる場所に長時間放置する。
- 水没させる、水が掛かる。
- 冬場の車内などの低温となる場所に長時間放置する。
- ペットがかみつく、だ液が付着する。

火災事故に至った場合の対処

発煙や発火などの事故に至った場合、製品がモバイルバッテリーのような小型のものであれば、消火器や大量の水を掛ける、水をためたバケツに投入する、などが事故の拡大を防ぐのに有効です。リチウムイオンバッテリーは熱くなればなるほど発火の危険が高まるため、発煙時は冷やすことが肝心です。

製品の外郭が焼損していたり、製品自体が高温だったり又は大きな火炎により上記の対処が困難と判断した場合は、製品近くの可燃物を遠ざけ、119番通報してください。

3. モバイルバッテリー

2018年2月にそれまで電気用品安全法の対象外とされていたモバイルバッテリーが、新たに規制対象となりました。

(1) PSE マークの技術基準への適合確認義務及び表示義務

2018年2月1日から、モバイルバッテリーはリチウムイオン蓄電池の技術基準に適合し、PSE マークが表示されているものでないと販売できません。経過措置期間として1年間が設けられていましたが、2019年1月31日にそれが終了するためです。

2019年2月1日以降に販売されているモバイルバッテリーにおいて、PSE マークが表示されていないものは技術基準への適合を確認していないものであり、そのような製品の購入は絶対に止めてください。

経済産業省からのお知らせ

<http://www.meti.go.jp/press/2017/02/20180201001/20180201001.html>



図7：PSE マーク（特定電気用品以外の電気用品）

(2) モバイルバッテリーの事故件数

2013年度から2017年度の5年間にNITEに通知されたモバイルバッテリーの事故件数は150件です。

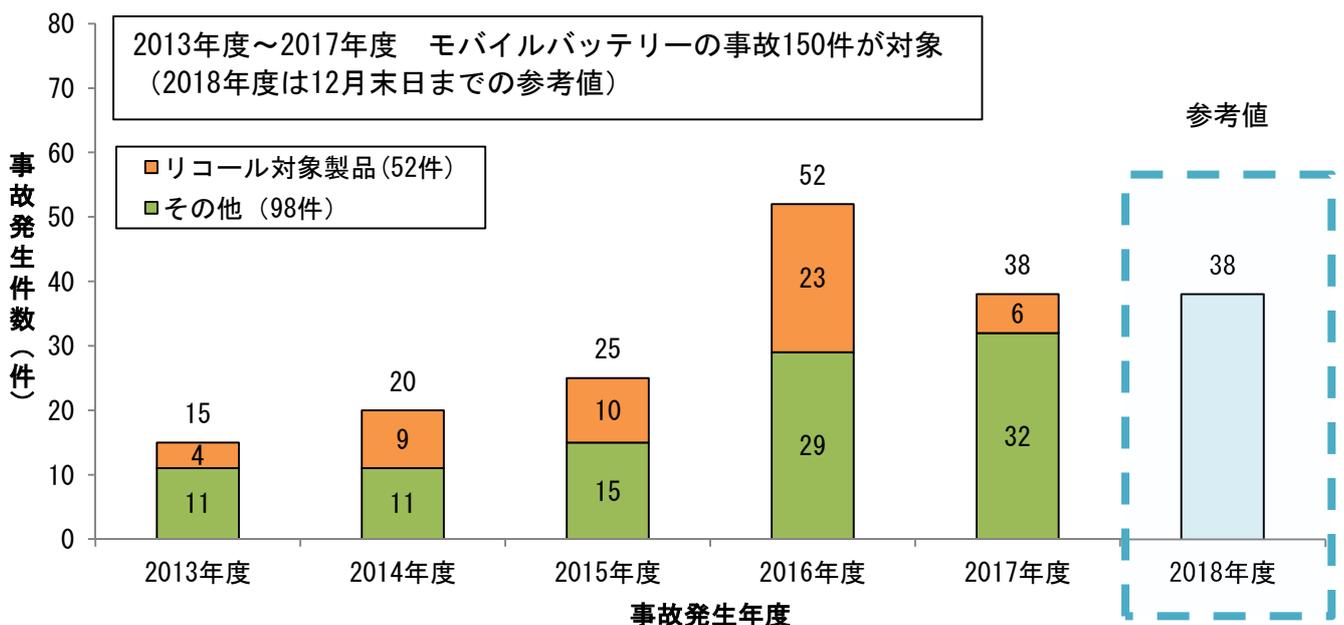


図8：年度別 事故発生件数（モバイルバッテリー）

(3) リコール対象製品の事故発生件数

図9にモバイルバッテリーの事故における「リコール対象製品による事故発生件数」を示します。

事故150件のうち、事業者が製品の交換や回収、注意喚起などのリコールを行っているものは52件(35%)あります。

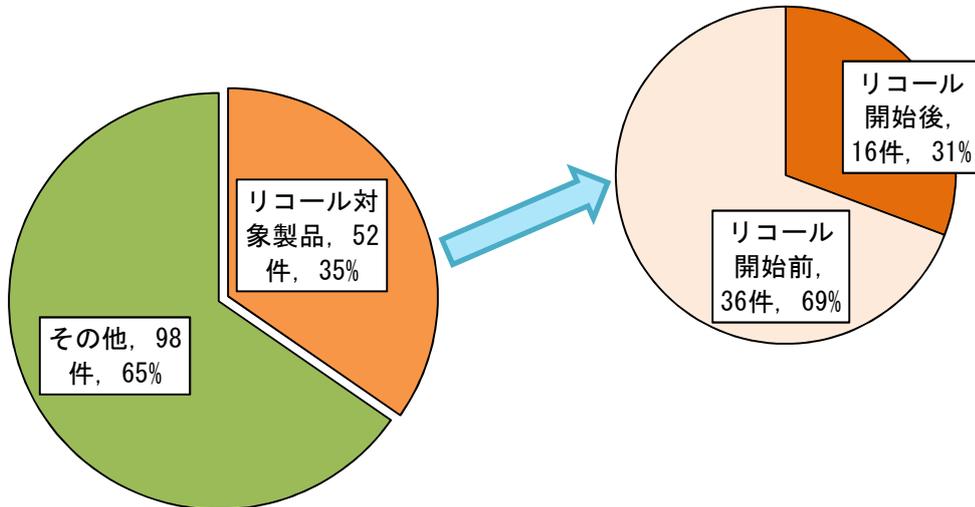


図9：リコール対象製品による事故発生件数（モバイルバッテリー）

(4) 事故発生時の使用状況

図10にモバイルバッテリーの事故における「事故発生時の使用状況」を示します。

モバイルバッテリーの事故150件のうち、事故発生時に充電中であった事故は62件(41%)です。

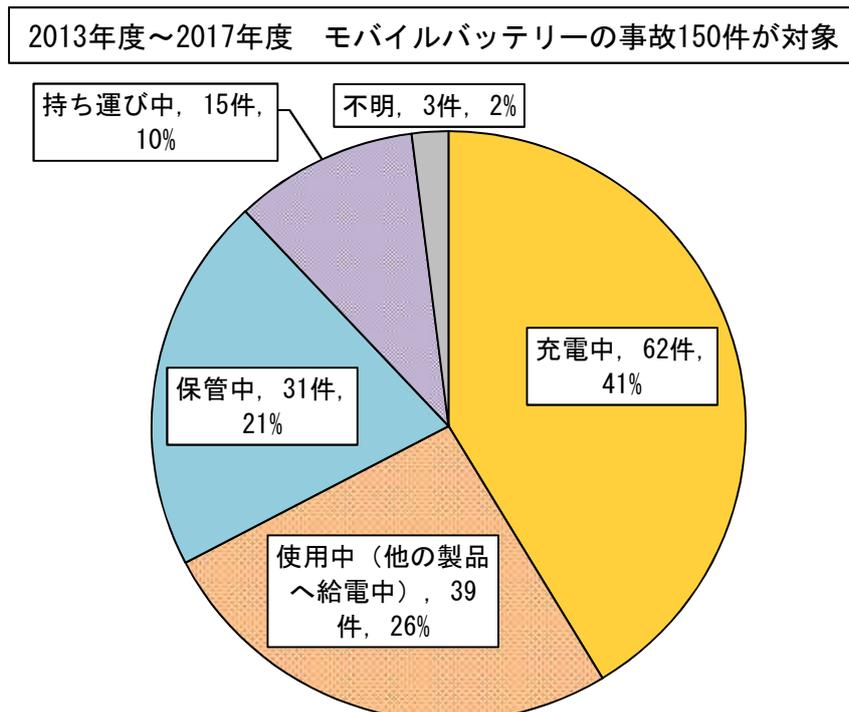


図10：事故発生時の使用状況（モバイルバッテリー）

4. 使わなくなったLiB製品について

LiB製品に使用されているリチウムイオンバッテリーはリサイクルの対象となっています。使わなくなったこれらの製品は、以下の場所で回収しています。

①LiB製品の製造・販売事業者

②モバイルリサイクルネットワークに参加する携帯電話会社等のショップ

参加している会社は、モバイルリサイクルネットワークのホームページで確認できます。

<https://www.mobile-recycle.net/>

③家電量販店、ホームセンター等のJBRCリサイクル協力店

リサイクル協力店はJBRCのホームページで確認できます。

<https://www.jbrc.com/>

モバイルバッテリーは、LiB製品での回収が可能ですが、その他はLiB製品から取り外したバッテリーパックでの回収となります。LiB製品の分解によるリチウムイオンバッテリーの取り出しは非常に危険ですので、廃棄方法については、製造・販売会社、リサイクル協力店にご相談ください。

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 新井 勝己
担当者 柿原、佐藤、向井

○ 記者説明会当日

電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870

○ 記者説明会翌日以降

電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

表 3 事故原因区分一覧

	区分記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示などに問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品に起因するが、その原因が不明なもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送などに問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱いなどに問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの（G3は除く）	焼損が著しいなどによって、原因が特定できず不明なもの 事故品が入手できないなど調査が行えないもの
	H	調査中のもの	調査中のもの

詳細データ

表 4：年度別 製品別 事故発生件数

製品名	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	総計
モバイルバッテリー	15	20	25	52	38	150
ノートパソコン	14	23	28	30	47	142
スマートフォン	6	6	12	21	34	79
電動アシスト自転車	4	6	5	8	9	32
ラジコン	1	11	7	6	6	31
携帯型音楽プレーヤー	9	4	3	2	1	19
照明器具		3	1	5	1	10
携帯電話	5	2	3			10
LED ヘッドライト			1	1	7	9
モバイルルーター	3	1	1	3	1	9
電気掃除機			4	3	2	9
DVD プレーヤー	4	2			1	7
タブレット端末			2	2	3	7
電動リール	1	1	1		3	6
電動工具	2	1		2	2	7
無線機	1	5	1			7
電熱手袋		1	1	1	3	6
ポータブル電源					5	5
ブルーレイプレーヤー		1	1		2	4
電子たばこ	1	1			1	3
電動立ち乗り二輪車				2	1	3
GPS距離測定器				1	1	2
カメラ用バッテリー		2				2
スピーカー					2	2
テレビチューナー	2					2
ポータブルテレビ	1	1				2
懐中電灯		1		1		2
水素水生成器					2	2
電動エアガン	1	1		1		3
電動剪定機		1			1	2
ドライブレコーダー				1		1
バッテリーケース		1				1
モニター				1		1
外付けハードディスク		1				1
携帯ゲーム機					1	1
扇風機				1		1
電気シェーバー		1				1
電動リクライニングソファ					1	1
総計	70	97	96	144	175	582